

## ●ルクセンブルク・デンマーク出張の帰国報告について

このたび、今後のTeam Sapporo-Hokkaido（以下「コンソーシアム」という。）におけるGX事業の推進のため欧州を代表する金融センターとしての地位を確立しているルクセンブルクと洋上風力発電の先進地であるデンマークを訪問し、関係機関とのネットワーク構築や先進事例の視察等を行いました。

今回の訪問を契機として、GX産業集積及び金融機能の強化集積に向けた取り組みを加速してまいります。

### 1 訪問概要

#### (1) 訪問者

秋元市長ほか、コンソーシアムメンバーら計 27 人

#### (2) 主なスケジュール（訪問先一覧）

日 時	スケジュール内容
11 月 14 日（火）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルクセンブルク金融ラベル庁（LuxFLAG）</li> <li>・ルクセンブルクファンド協会（ALFI）</li> <li>・ルクセンブルク経済省</li> <li>・ルクセンブルク銀行協会（ABBL）</li> <li>・ルクセンブルク・フォー・ファイナンス（LFF）</li> <li>・ルクセンブルク証券取引所（LuxSE）、ルクセンブルクグリーン取引所（LGX）</li> <li>・在ルクセンブルク日本国大使館</li> </ul> ※市長はミュンヘンから移動のため、在ルクセンブルク日本国大使館にて合流。
11 月 15 日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルクセンブルク市役所</li> <li>・在デンマーク日本国大使館</li> </ul>
11 月 16 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コペンハーゲン・インフラストラクチャー・パートナーズ（CIP）</li> <li>・オーステッド</li> <li>・GWO（Global Wind Organization/国際風力機関）</li> <li>・インベスト・イン・デンマーク</li> <li>・グリーンパワーデンマーク</li> <li>・デンマークエネルギー庁</li> </ul>
11 月 17 日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベスタス</li> <li>・メタ（Meta） データセンター</li> <li>・マースク・トレーニング</li> </ul>

### 2 主な訪問先

#### (1) ルクセンブルク

##### ① ルクセンブルク金融ラベル庁との意見交換

イザベル・デラス CEO を訪問し、認証ラベルの取組や組織体制について説明を受けた。

厳格な認証基準や運営の独立性・透明性が、投資家の信頼につながっていることから、世界中からGX産業に関連した投資を呼び込んでいくための有効な手法として認識した。

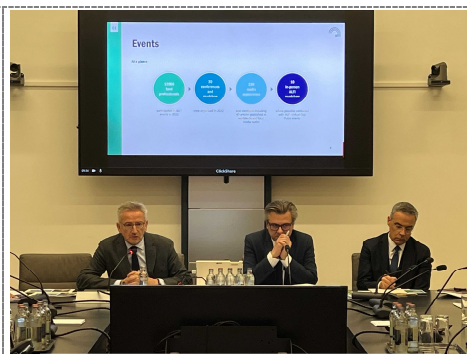


デラス CEO からの説明

② ルクセンブルクファンド協会との意見交換

カミーユ・トムズ事務局長を訪問し、ルクセンブルクへの投資の呼び込み等のための取組について説明を受けた。

ルクセンブルクでは、国外への広報活動と投資家ニーズに合った法的な枠組みを構築することで、世界中からの投資を集めているところであり、コンソーシアムにおける今後の取組に生かしていく。



トムズ事務局長からの説明

③ ルクセンブルク経済省との意見交換

クリスチャン・トック産業・新技術・研究総局次長を訪問し、ルクセンブルクの産業構造や経済政策等について説明を受けた。

付加価値の高い産業の育成及び誘致により、中心産業である金融業とのシナジーを生んでいることから、引き続き、GX産業集積に向けた取り組みを進めていく必要性を強く認識した。



トック次長からの説明

④ ルクセンブルク銀行協会との意見交換

ジェリー・グルビッチCEOを訪問し、ルクセンブルクの金融セクターの概要等について説明を受けた。

ルクセンブルクは、金融業を最重要産業として位置づけ、サステナブルファイナンスの推進等により、国際的な評価を得ているほか、金融人材の育成にもつながっているところであり、コンソーシアムが進める金融機能の強化集積に重要な示唆をいただいた。



グルビッチ CEO からの説明

⑤ ルクセンブルク・フォー・ファイナンスとの意見交換

リン・ロブブルックス事務総長を訪問し、ルクセンブルクの国際金融センターとしての成り立ちや、金融機能の充実・強化、環境金融人材の育成について説明を受けた。

コンソーシアムによる環境金融人材育成について、国際金融センターを目指すうえで、必要不可欠なものであるとの認識を新たにした。



ロブブルックス事務総長と訪問団

⑥ ルクセンブルク証券取引所及びルクセンブルク・グリーン取引所との意見交換

ルクセンブルク証券取引所のモーリス・バウアー事務局長及びルクセンブルク・グリーン取引所 (LGX) のレティシア・ハモン サステナブルファイナンス責任者を訪問し、同取引所の上場の仕組みや LGX における情報プラットフォームや人材育成の取組等について説明を受けた後、北海道・札幌との連携等に関する意見交換を行った。

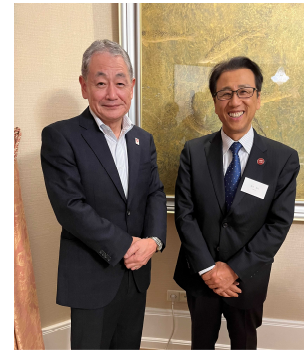


バウアー事務局長らと訪問団

⑦ 在ルクセンブルク日本国大使館との意見交換

松原正浩大使を表敬し、経済成長に合わせて雇用が創出され、国外からの移民が増加する中で多言語化が進行したことや、基幹産業だった鉄鋼業から金融業に転換したルクセンブルクの産業構造等について説明を受けた。

金融センターの実現に向けては、言語の壁に対応することが重要であることを再認識した。



松原大使を表敬

⑧ ルクセンブルク市との意見交換

リディ・ポルファー市長を訪問し、ルクセンブルク市のまちの成り立ちや公共交通がすべて無料といった特徴、金融センターの成功要因ともなっている公民のパートナーシップ等について説明を受けた後、金融都市としての発展するための取組等について意見交換を行った。



リディ・ポルファー市長との意見交換

(2) デンマーク

⑨ 在デンマーク日本国大使館との意見交換

宇山秀樹大使を表敬し、デンマークの産業構造や輸出額のうちエネルギー関連が占める割合、今後のエネルギー政策等の現地情勢について説明を受け、意見交換を行った。

デンマークでは、気候変動対策及びエネルギー安定供給のために再生可能エネルギーの導入を積極的に進めており、また、それが経済活性化にもつながっていることを再認識した。



宇山大使を表敬

⑩ コパソハーゲン・インフラストラクチャー・パートナーズとの意見交換

ソーレン・トフトゴーCIPパートナーを訪問し、CIPが運用しているファンドや、デンマーク国内外で進めているグリーン水素に係るプロジェクト、アジアや日本における Power to X の今後の展開等について意見交換を行った。



トフトゴー パートナーからの説明

⑪ オーステッドとの意見交換

ラスマス・ニコラ・ドゥエ・スコフ国際渉外・グローバルステークホルダー関係部門長を訪問し、洋上風力発電開発や Power to X などのこれまでの取組実績や今後の展開について説明を受けた。

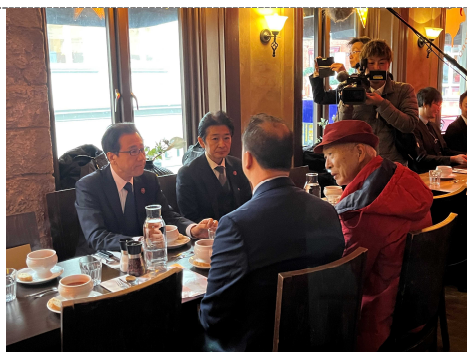
元々、石油・天然ガス会社であったオーステッドは、それまでの炭素ビジネスに将来はないと考え、再エネ中心のビジネスに転換した。加えて、再エネからの水素製造にも取り組み始めている。



スコフ部門長からの説明

⑫ GWO (Global Wind Organization) との意見交換・要望

ラルフ・サヴェージグローバル開発・ステークホルダー関係担当ディレクターを訪問し、風力発電作業者に提供する訓練標準 (GWO訓練) について説明を受けたほか、北海道における洋上風力関連人材の育成に関する要請を行った。



ラルフ ディレクターからの説明

⑬ インベスト・イン・デンマークとの意見交換

シャーロット・メルキオーセン 外務省クリーンテックチームリーダーを訪問し、風力発電やグリーン海運・運輸、水素などの「クリーンテック」に係る取組や、それらに関する投資促進の取組について説明を受けた。

デンマークにおいて、現在、最も注目され投資が集まっている分野が Power to X であり、電化が難しいトラックや船舶、飛行機などの脱炭素化を進める技術である SAF やグリーン燃料のほか、洋上風力を活用した水素製造などの取組が進められている。

これらのデンマークの事例も参考にしながら、コンソーシアムにおいても 8 つの G X プロジェクトにおいて、SAF や水素活用の取組を進めていく。



メルキオーセン チームリーダーからの説明

⑭ グリーンパワーデンマークとの意見交換

カミーラ・ホルベック再生可能エネルギー・国際協力部門長を訪問し、デンマークにおける G X 産業の集積や人材育成の取組について説明を受けた。

G X 産業の集積の好例として、北海全体の洋上風力の拠点となっているエスビアウ港について、周辺地域では洋上風力サプライチェーン全体にわたる 200 企業、10,000 人の従業員が雇用され、産業クラスターが形成されていることの紹介があった。

これらの説明を踏まえ、洋上風力発電を始めとする再エネ関連産業が、地域における産業振興の大きな要素になり得ることを実感した。



写真右：ホルベック部門長

⑮ デンマークエネルギー庁との意見交換

ジェイコブ・オスターガード バルチックエナジーアイランド財団理事を訪問し、デンマークにおけるエネルギー政策全般のほか、「エネルギーアイランド」という大規模プロジェクトについて説明を受けた。

ボーンホルム島では世界で初めて3GWの洋上風力発電でエネルギーを賄う島を目指しており、人口4万人の島にとっては非常に大きなプロジェクトであり、雇用機会の創出も期待される。

エネルギーアイランドの取組や、ネットワーク化により効率的な電力融通を行う仕組みについては、参考になる取組と感じた。



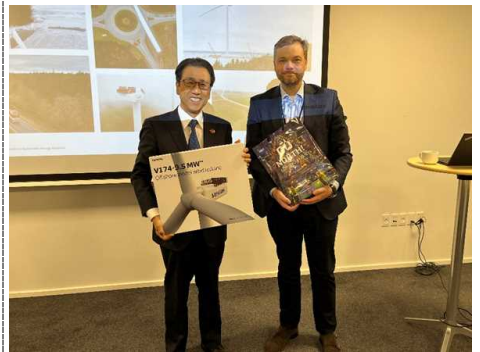
オスターガード理事からの説明

⑯ ベスタスとの意見交換

クレステン・オルンビエアグ副社長を訪問し、洋上風力関連産業のサプライチェーン構築や人材育成に係る取組について説明を受けた。

風力発電機メーカーの世界最大手であるベスタスは、日本の洋上風力では秋田港や能代港で採用されているほか、北海道においても陸上風力が運用中であり、運用・メンテナンスで多くの人が関わっている。

サプライチェーンや人材育成に関しては、引き続きコンソーシアムで連携を図りながら取り組むことが重要と認識した。



写真右：オルンビエアグ副社長

⑰ メタ (Meta データセンター) との意見交換

リサ・シグ・オレセン 北欧コミュニティ開発マネージャーを訪問し、データセンターにおける100%再エネ電力の活用や、データセンターから発生する排熱を活用した地域熱供給について説明を受けた。

再エネ電力の確保は、データセンター誘致の立地を決定する大きな要素であり、北海道の国内随一の再エネポテンシャルが誘致の優位性になり得ることを改めて認識した。



写真左：オレセン マネージャー

⑱ マースク・トレーニングとの意見交換・施設視察

ペール・ラーセン イノベーション部門責任者を訪問し、洋上風力発電に係る洋上作業に必要なGWOトレーニング内容等について説明を受けた。

マースク・トレーニングは、風力発電の作業安全に関する基準づくりでGWOを主導する立場にあり、ヨーロッパ各地に拠点を設けるほか、アメリカ、中東、日本にも拠点を設置している。

説明後は、実際にトレーニング施設の視察も行い、洋上風力発電に係る人材育成の早期着手、GWO認証訓練施設の道内誘致の必要性を認識した。



トレーニング施設視察